※令和４年度以降入学生用

学校番号	１１０

令和８年度　芸能文化科

教科	芸能文化	科目	舞台演習 （芸術論）	単位数	３単位の内の ２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・前期は「寄席の芸能」に焦点をあてて授業をします。寄席の成り立ち・推移を学ぶとともに、落語・講談・太神楽を始めとして浪曲・漫才まで、動画鑑賞などを通じて様々な寄席芸能に触れてもらいます。演芸に対する理解を深めることで、寄席鑑賞行事の事前学習に役立ててください。また文化祭でのクラス企画（寄席）をより充実した内容にしてください。
・後期は大阪芸術大学の様々な学科の先生方を招いて特別授業をしていただきます。（芸大授業）舞台芸術だけでなくデザイン、映像・写真、音楽など幅広い分野の芸術論の講義を受講することで芸術への造詣を深めるとともに、社会人としての教養を身につけてもらいたいと思います。また、高校卒業後も学び続けることの意義や自分の進路について考える機会になることを願います。

２　学習の到達目標

（１）　江戸時代から現代まで、寄席の芸能がどのように推移してきたかを時代背景とともに理解することを目標とする。
（２）　落語・講談・太神楽・浪曲・漫才など、それぞれの演芸の特徴について学び、その面白さを知ることで今後の鑑賞時により深く判断し、内容を味わい、他の芸能と比較できる教養を身につけることをめざす。
（３）　芸大授業では、大学での多分野にわたる講義を体験させていただくことで、それまで知らなかった芸術分野への興味関心を深め、社会人としての幅広い教養を身につけることをめざす。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・それぞれの寄席芸能の成り立ちとその特徴を理解することができる。 ・芸大授業では、様々な芸術についての知識をさらに深めようとしている。	・寄席芸能がどのように推移してきたかを時代背景とともに理解することができる。 ・芸大授業では、講義を受けて学んだことをまとめたレポートを完成することができる。	・動画の視聴などをきっかけに、それぞれの芸能に興味を持って主体的に調べたり、クラスメートと意見交換をしようとしている。 ・芸大授業では、講義を主体的な態度で受け、感想などをまとめたレポートを欠かさず提出することができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	寄席とは	寄席の成り立ち 江戸から現代まで寄席の推移 定席とは	a:寄席の成り立ちからその歴史などについて理解できている。 b:江戸から現代までの寄席の推移について時代背景と結びつけて理解できている。 c:寄席芸能に興味を持って主体的に調べたり意見交換をしたりしようとしている。	定期考査	定期考査 レポート	レポート 授業観察
	様々な寄席芸能	落語とは 講談とは 浪曲とは 太神楽とは 漫才とは	a:それぞれの寄席の成り立ちとその特徴などについて理解できている。 b:それぞれの寄席芸能の推移について時代背景と結びつけて理解できている。 c:寄席芸能に興味を持って主体的に調べたり意見交換をしたりしようとしている。	定期考査	定期考査 レポート	レポート 授業観察
後期	芸大授業	キャラクター造形 デザイン 写真 映像 アートサイエンス 放送 建築 音楽 芸術計画 舞台芸術	a:様々な芸術についての知識をさらに深めることができる。 b:それぞれの講義を受けて学んだことを整理し、まとめることができる。 c:それぞれの講義を主体的な態度で受け、感想などをレポートにまとめて欠かさず提出しようとしている。	定期考査 レポート	定期考査 レポート	レポート 授業観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度